

ひつこくだまねかな？



来月小学校にあがる子どもの一日入学。先生とのジャンケンに教室は元気な声がいっぱい。「名前はちゃんと言えますか」「ハイ」「毎日顔を洗えますか」「ハイ」
(3月2日、葛塚小学校で)



子供たちの安全を願って

3月6日、約15人の交通指導隊員が、葛塚小、葛塚東小の通学路などを中心に除雪を行いました。



おごそかに初午祭

稲荷神社の祭り初午祭が3月1日行われました。稲荷はイネの神として広く信仰されていますが、相生町の稲荷神社では、約15人の氏子が集まり初午祭と鎮火安全を願う火防の儀を行いました。



税金の申告相談

税金の確定申告特設会場となった中央公民館の講堂。今年も農業や自営業の人、サラリーマンや主婦などが申告書類をもって、ひっきりなしに訪れていました。(3月2日)



(15)

大正期の岡方村政

「大正四年岡方村事務報告」は最も古い村政報告である。この報告と「大正五年度岡方村歳入歳出予算」によって、当時の岡方村政を紹介する。

職員は村長以下七人、事務担当及び報酬等は次のとおりである。

- ◎近田村長—収支命令事務 報酬年額二百三十円
- ◎前田助役—兵事・戸籍・社寺 給料月俸十七円
- ◎桜井収入役—収支事務 給料月俸十四円
- ◎土田書記—会議・勸業・衛生・土木・庶務
- ◎蒲沢書記—以上の事務補助
- ◎小林書記—税務・教育



旧岡方村役場

◎坂井書記—寄留・土地 (以上書記四人の平均月俸十二円) ほかに役場使丁二人と大字使丁が三人いた。
職員の働きぶりは勤勉で、村長の欠勤日数はゼロ、他の職員の数多くも三百日の執務日数のうち、病欠欠勤を除きほとんど出勤している。これは村内二つの小学校教員の場合も同様で、ほとんどが欠勤出張ともゼロと記録されている。村議会は年間の開催四日。日数も一回一日で四日。議決事件五、

報告事件も五。議員定数は十八。議員は各大字から一人〜三人選出されていた。また全員地租を納める地主・自作層に属し、各大字の重立衆であった。議員は実費弁償として日額三十五銭を支給されるほかは無給の名譽職であった。
村の予算(別掲のとおり)は、歳入の四分の三近くは村税であった、そのうちの半分は地租割で、地主・自作層が負担する形であった。
歳出は小学校費が半分を占め、その内訳は今と違って、教員の給料費がほとんどであった。正教員の給料は一人月額十六円程度。
当時の村にとって優秀な教員を集めるために、給料水準を維持することが必要で、教育費の確保は村政の最大の課題であった。
役場費は報酬・給料が主となっていて、事業費は小学校費を除くと道路・橋・用排水路等の土木費程度。文字どおり「小さな政府」ということができる。
現在自治体が行っている公的事業のほとんどは、各大字の自治組織と、それぞれの家や個人の努力

にゆだねられていた。(大正五年岡方村会議事録による)

大正五年度 岡方村の予算(円未満切捨)

歳入 10,330円	村税 7,532円 <73%> (地租別付加額 3,739円) (戸数別付加額 2,902円) その他 891円	その他 <27%> (雑収入・交付金) (大役他)		
歳出 10,330円	岡方小学校費 5,022円 <50%> (正教員給料 3,456円) (需用費 717円) その他 849円	役場費 2,351円 <23%> (報酬・給料1,311円) (その他 1,040円)	土木費 1,254円 <12%> (道路他)	その他臨時部 <15%> (諸税負担) (伝染病予防) 他

市史編さん員 五百川 清